

このままでよいのか

失われたおとなの權威

遊びがやがてほんものに

わが国は、自由主義諸国の中で「最も治安のよい国」と評価されています。それは日本人の知性と、勤勉、豊かさに支えられて作られたもので、私たちの誇りでもあります。

ところで、最近のわが国の社会風潮の中に、ある種の犯罪、あるいは社会ルール違反について、それが罪悪であるという観念が一般的に減退し、特別の悪意もなく軽い気持ちで違法をあえてするという現象があるようです。

この罪悪感の希薄化、違法と合法のけじめの不明化が、刑法上、凶悪犯罪とされる行為についてすら起りつつあり、この傾向が成人はもちろん、青少年層の犯罪や、社会ルール違反の誘惑に対する抵抗力を弱めることになりました。

最近の非行の特徴を、「遊び型」と呼ぶように、従来からの「物を求めて」、「金が欲しくて」という動機ほかに、非行それ自体にスリルを求めて、あるいは「遊び」として意識する傾向が強まっています。

しかし、「遊び」だからと、安易に考えてはいけません。「遊び型非行」は、小さなルール違反に始まって徐々に、社会秩序の根幹となるルールにいたるまで無視し、社会そのものを不安定な状態にするおそれがあり、その意味で、「遊び型非行」こそ、危険信号と見るべ

きでしょう。

おとなの責任

青少年は、本来純真で新鮮な活力に満ち、将来を託され、次の世代の指導者となるべき宝なのです。だが、昨今の若者の中に、その行動といい、ものの考え方といい、ひと時代前とはずいぶん変わった者が多くなりました。

それは、周囲の人のことなどお構いなく、すべて、「関係ない」のひとことで他人の忠告を拒否し、臆病なくせに、やることは無鉄砲、そのくせ常に安全地帯に保護されていて自由を享受し、自分の行動を正当化しておきたい、という要領のいいタイプです。

このような青少年がふえてくると、社会は冷えてしまおうでしょう。私たちの世の中に「ぬくもり」をとりもどすために、若者たちに、社会人としての生きかたを、優しく思いやりを教えてやりたいものです。

分別のない若者の行動を制御し、指導するのはおとなの役割のはずですが、面倒だからしないのか、指導するに足る自信がないからなのか、おとなたちは、若者の行動を見えぬふりをしがちです。家庭、学校、社会には守るべき「おきて」があるはずですが、ルールを守らせる、善意のけじめをハッキリさせることは、まず、おとなが手本を示し、若者にも守らせることが大事だと思います。

シンナー等の乱用防止を

青少年課でスライド作成

いま、青少年にシンナーを吸うという「わるい遊び」が流行し、昨年は成人七十九名、少年五百十七名の乱用者が警察に発見されました。

シンナー遊びが原因で命を失い、事故を起こし、あるいは心身に障害を起こす例も多く、県内でも昨年は四人の死者が出ています。

さらに本年は一月に、シンナー乱用少年が乗用車を暴走させて、耳の不自由な少女の命を奪い、また、シンナー常習の中学生が自殺しました。県はこの問題を重視し、衛生部長を薬物乱用対策推進地方本部長に、警察、教育の関係機関が協

力し、業界にも呼びかけてシンナー等乱用の防止活動を進めています。

青少年課では、保護者の認識を高めようと、カラーズライドを制作しました。内容は、シンナー、接着剤の害毒の説明のほかに、わが国の覚せい剤、麻薬等の乱用の歴史、薬物乱用者に共通する性格にもふれています。フィルムは五十三コマ、カセットテープ付で上映時間は二十分です。利用のご希望は青少年課へ申しこんでください。

(電話八一七六七四)

